

## アグリッド、国内最大級の農業用ハウスが竣工、 ミニトマトの栽培と出荷を開始

### ～ロボット・ICT 技術を活用し、スマート農業の実現に貢献～

株式会社浅井農園(本社:三重県津市、社長:浅井 雄一郎)と株式会社デンソー(本社:愛知県刈谷市、社長:有馬 浩二)が設立した株式会社アグリッド(本社:三重県いなべ市、社長:浅井 雄一郎)は、三重県いなべ市において国内最大級の農業用ハウスを竣工し、ミニトマトの栽培・出荷を開始しました。

日本の農業現場では、担い手の減少や高齢化により労働力不足が深刻な課題になっており、ロボット技術やICTを活用することで超省力・高品質生産を実現するスマート農業が期待されています。

アグリッドは、今回建設したハウスにおいて、浅井農園の持つ国内トップクラスの施設栽培技術、品種開発技術と、デンソーの持つハウス内の環境制御技術、作業改善や自動化による省人化などの工業化技術を農業に導入することで、「働きやすい・儲かる農業」を目指しています。

具体的には、農場の飛躍的な生産性向上を目指し、ハウス内の温度や湿度などを最適化した季節や天候に左右されない安定した野菜の周年栽培、収穫物などの運搬作業や夜間の収穫作業を自動化することで「人と機械の協働」による省人化と農場の24時間稼働に取組みます。この生産性の高い持続可能な次世代施設園芸を通じ、国内外の農業生産事業に貢献していきます。

#### <アグリッド 大規模ハウスの主な特徴>

- 人と機械が協働するスマート生産体制
  - 従業員のシフト調整、作業内容、勤務管理をクラウドで管理し、トマトの収穫から出荷までの作業を可視化することで、ムリ・ムダ・ムラを削減
  - 収穫量・出荷量の変動による生産性のバラツキを、工業化技術によるライン最適化・カイゼンにより作業人員の省人化を実現
- 自動収穫ロボット「FARO(ファーロ)」
  - 浅井農園の協力の下、デンソーが開発した農業用ロボット「FARO」で収穫作業を自動化し、人の作業量を低減
- 収穫物の自動搬送装置
  - 1度に160kgまでのトマトを自動搬送することで、従業員による重労働を削減し、作業負荷を低減

## <大規模ハウスの概要>

1. 建設場所 : 三重県いなべ市大安町大井田 3073 番地
2. 竣工 : 2019 年 3 月
3. 規模 : 4.2ha (栽培面積)



アグリッドの大規模農業用ハウス



デンソーが開発した自動収穫ロボット  
「FARO(ファーロ)」



自動搬送装置



トマトを収穫するロボット「FARO」

## <アグリッドの概要>

1. 社名 : 株式会社アグリッド
2. 会社設立 : 2018年8月
3. 所在地 : 三重県いなべ市大安町大井田 3073 番地
4. 資本金 : 5,000 万円
5. 出資比率 : 浅井農園:51%、デンソー:49%
6. 社長 : 浅井 雄一郎
7. 事業内容 : ・生鮮野菜の生産、販売  
・大規模ハウスにおける次世代施設園芸モデルの開発、実証

アグリッドは、事業活動を通じた社会的な課題の解決により、SDGs へ貢献します。



以 上

### ◇本件に関するお問い合わせ先

株式会社浅井農園 経営企画部

馬野・河瀬 059-230-1212

株式会社デンソー 広報・渉外部

鈴木・貴島 0566-55-9752、0566-55-9736